



GPS/JIPS 安全性要約書

1. 製品名 (PRODUCT NAME)

VF-303

2. 製品の概要 (GENERAL STATEMENT)

VF-303は、耐食性に優れた樹脂セメントなどに使用される熱硬化性フラン樹脂です。主な成分はフルフリルアルコールとフルフラールですが、人体に有害な物質が含まれており、誤って飲み込んだり皮膚に触れたりすると有害な可能性があります。また、吸入すると生命に危険があります。皮膚や眼に接触すると皮膚刺激や強い眼刺激を引き起こします。

さらに、発がんのおそれの疑いがあり、呼吸器や肝臓に障害を引き起こす可能性があります。長期または反復してばく露すると、呼吸器、肝臓、腎臓、中枢神経に障害を引き起こす恐れがあります。作業の際は、必ず換気の良い場所で、専用の装置や保護具を着用して取扱ってください。

3. 化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

項目	内容
化学名又は一般名	フラン樹脂
製品名	VF-303
出典・備考	株式会社レゾナック発行の SDS 第 3 項

組成

化学名	濃度 (%)	化学式等	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
フラン樹脂	67±10	-	(7)-729	-	26374-37-8
フルフリルアルコール	16±5	C ₄ H ₃ O·CH ₂ OH	(5)-31	既存化学物質	98-00-0
フルフラール	17±5	C ₄ H ₃ O·CHO	(5)-40	既存化学物質	98-01-1
アセトン	<0.2	C ₃ H ₆ O	(2)-542	既存化学物質	67-64-1

4. 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

主な用途	防食材料等
------	-------

5. 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

本製品は黒褐色の液体で、特有の臭気を持ちます。化学的に不安定であり、強酸化剤との接触により発熱や発火の可能性があります。また、分解するとフルフリルアルコールなどの有害物質を生成するため、取扱いには十分な注意が必要です。25℃以下の涼暗所で直射日光を避け、容器を密閉して保管してください。

物理的状态	液体
色	黒褐色
臭い	特異臭あり
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	あり
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	66℃
相対密度	1.215(20℃)[比重]
出典・備考	株式会社レゾナック発行の SDS 第 9,10 項

6. ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

危険有害性項目	GHSによる分類結果および評価コメント
急性毒性(経口)	区分3 飲み込むと有毒
急性毒性(経皮)	区分3 皮膚に接触すると有毒
急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない(非該当)
急性毒性(吸入:蒸気)	区分2 吸入すると生命に危険
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分2 皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A 強い眼刺激
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分2 発がんのおそれの疑い
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1 臓器の障害(呼吸器、肝臓)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器、肝臓) 区分2 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(腎臓、中枢神経系)
誤えん有害性	分類できない
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第2,11項
<p>・GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 世界的に統一されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報をラベルで表示し、安全データシートを提供したりするシステムです。</p> <p>・区分に該当しない(非該当): GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていません。</p> <p>・区分に該当しない: GHS分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行った結果、GHSで規定するいずれの区分にも該当しないと考えられます。</p> <p>・分類できない: 分類を確定するための十分に信頼性のあるデータがなく、分類できません。</p>	

7. 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

危険有害性項目	GHSによる分類結果および評価コメント
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第2,12項

環境中の運命・動態

土壌中の移動性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
PBT/vPvBの結論	情報がなく判断できない。
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第12項

8. ばく露 (EXPOSURE)

詳細	ばく露の可能性
作業員ばく露	バッチおよびその他のプロセス作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出、装置故障などの際に、作業員が経皮や吸入によるばく露の可能性がります(PROC4)。
消費者ばく露	当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。

環境ばく露	熱硬化性樹脂と硬化剤、充填剤を混合し、硬化させる工程で、主に大気に排出される可能性があります (ERC6d)。
注意事項	他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施して下さい。

9. 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

推奨するリスク管理措置により、8 項のばく露シナリオによる作業員、消費者および環境に対するリスクは、最小化可能と考えられます。

詳細	推奨するリスク管理措置
作業員	<p>技術的対策・局所排気・全体換気： 室内での作業時には、十分な換気を行い、適切に設置された局所排気装置を使用してください。作業中は、保護メガネ、マスク、手袋などの保護具を着用し、吸入や皮膚への接触を避けるようにしてください。また、火気や静電気に十分注意し、作業環境の濃度を管理することで、安全に取扱ってください。</p> <p>許容濃度 フルフリルアルコール： 日本産業衛生学会の勧告値：5ppm ACGIH (アメリカ産業衛生専門家会議) の TLV-TWA (時間加重平均値)：10ppm 濃度基準値 (ばく露に関する基準)：8 時間濃度基準値 0.2ppm、短時間濃度基準値は未設定</p> <p>フルフラール： 日本産業衛生学会の勧告値：2.5ppm ACGIH の TLV-TWA：2ppm 濃度基準値 (ばく露に関する基準)：8 時間濃度基準値 0.2ppm、短時間濃度基準値は未設定</p> <p>アセトン： 日本産業衛生学会の勧告値：200ppm ACGIH の TLV-TWA：250ppm</p> <p>保護具： 有機ガスによる健康被害を防ぐため、作業中は必ず有機ガス用の防毒マスクを着用してください。高濃度のガスが発生する場合は、送気マスクを使用してください。また、皮膚や眼を保護するために、耐油性の手袋、保護眼鏡、防災面を着用し、不浸透性の長靴や前掛けで身体全体を保護してください。</p> <p>【リスク管理措置の例】 ばく露の機会のあるバッチ及びその他のプロセスでの使用：局所排気装置のある室内および保護手袋 (防護率 80%)</p> <p>注意事項： 作業責任者は、作業員に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をして下さい。</p>
消費者	当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。
環境	環境に悪影響を与えないよう、河川や下水に直接流したり、環境中に放出したりしないでください。
特記事項 (漏出時の緊急措置など)	人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 回収作業時には、必ず保護具を着用し、有害物質の吸入や皮膚への接触を防いでください。大規模な漏出が発生した場合は、ロープを張る

	<p>などして関係者以外の立ち入りを禁止し、風下側での作業は行わないでください。</p> <p>環境に対する注意事項： 本製品は、河川、下水、排水等への流出、および土壌への浸透を防いでください。製品の封じ込め作業を行う際は、付近の着火源となるものを速やかに取り除き、必ず保護具を着用の上、飛散した製品を掃き集めて密閉可能な空容器に回収してください。掃除機を用いて回収する場合は、防爆型の掃除機を使用してください。 火災の危険性があるため、作業場所周辺では火気を厳禁とし、消火用機材(粉末消火器、泡消火器、炭酸ガス消火器、乾燥砂、水)を必ず準備してください。万が一、火災が発生した場合には、直ちに関係者以外の立ち入りを禁止し、初期消火には粉末消火器や炭酸ガス消火器などを用いてください。火勢が拡大した場合は、泡消火剤などを用いて空気を遮断し、周囲の設備などに散水して冷却を行うなど、適切な消火活動を行ってください。移動可能な容器に入った製品は、速やかに安全な場所に移置してください。消火作業を行う際には、必ず保護具を着用してください。</p>
注意事項	通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、株式会社レゾナック発行のSDSの4,5,6,7,8,13,14項を参照して下さい。

10. 政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

国際機関、各国当局によるレビュー	
IPCS (国際化学物質安全性計画)	国際化学物質安全性カード フルフリルアルコール https://chemicalsafety.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=0794&p_version=2 フルフラール https://chemicalsafety.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=0276&p_version=2 アセトン https://chemicalsafety.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=0087&p_version=2
OECD (経済協力開発機構)	高生産量化学物質(HPV chemicals)点検計画 フルフラール https://hvpchemicals.oecd.org/UI/SIDS_Details.aspx?key=e8ba6a9d-5b93-4781-9c7f-a53fcdce09f0&idx=0 アセトン https://hvpchemicals.oecd.org/UI/SIDS_Details.aspx?key=144d1bb0-8214-45fc-a423-7c83e8979736&idx=0
NITE-CHRIP (NITE化学物質総合情報提供システム)	https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput
政府によるGHS分類結果	フルフリルアルコール https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/ghs/20-mhlw-2030.html フルフラール https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/ghs/17-mhlw-2110.html アセトン https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/ghs/14-mhlw-2006.html

11. 法規制情報／GHS分類情報・ラベル情報 (REGULATORY INFORMATION／GHS CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報

適用法令	規制状況
労働安全衛生法	名称等を表示すべき有害物 (フルフリルアルコール, フルフラール) 名称等を通知すべき有害物 (フルフリルアルコール 16%, フルフラール 17%, アセトン 0.1%) 皮膚等障害化学物質(第594 条の2) フルフリルアルコール, フルフラール
消防法	危険物 第4 類 第2 石油類(非水溶性液体)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第1 種[フルフラール 17%]
国連分類	6. 1(毒物)
国連番号	2810

GHS 分類情報

物理化学的危険性	引火性液体 区分4
健康有害性	急性毒性(経口) 区分3 急性毒性(経皮) 区分3 急性毒性(吸入:蒸気) 区分2 皮膚腐食性／皮膚刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2A 発がん性 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器、肝臓) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(呼吸器、肝臓) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(腎臓、中枢神経系)

ラベル情報

絵表示又はシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	可燃性液体 (H227) 飲み込むと有毒 (H301) 皮膚に接触すると有毒 (H311) 吸入すると生命に危険 (H330) 皮膚刺激 (H315) 強い眼刺激 (H319) 発がんのおそれの疑い (H351) 臓器の障害(呼吸器、肝臓) (H370) 長期的にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器、肝臓) (H372) 長期的にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(腎臓、中枢神経系) (H373)

12. 連絡先 (CONTACT INFORMATION)

会社名 株式会社レゾナック
住所 〒308-8521 茨城県筑西市小川 1500
担当部門 下館事業所 多層材料製造部 ワニス課
電話番号 0296-20-2320(担当部門) FAX番号 0296-28-6209

**13. 発行・改訂日、その他の情報
(DATE OF ISSUE / REVISION, ADDITIONAL INFORMATION)**

発行日: 2024年10月9日

改訂:

改訂日	改訂項目	改訂箇所	版
-----	------	------	---

記載の情報は、2024年3月18日 改訂版の安全データシート(SDS)に基づいています。

14. 免責条項 (DISCLAIMER)

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS: Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象品に関する安全な取扱いに関する情報を概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)や化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。本安全性要約書は、発行時点で入手可能な法令、資料、情報等のデータに基づいて、できる限り正確な記載に努めておりますが、すべてのデータを網羅したわけではありません。また、いかなる保証をするものでもありません。